共立女子学園報62

2020年10月

コロナ禍による学園の取り組み

64号（2021年10月発行予定）より
秋号はデジタル版になります

学園長・理事長メッセージ

柔軟に進化し続ける共立女子学園を目指して

学校法人共立女子学園
学園長・理事長　御手洗 康

近年、社会環境の不確実性や複雑性が増し、先行きを見通しづらい時代になっていますが、今年はコロナ禍という前例のない事態に直面し、日本社会のみならず世界全体が大きく変動しています。

このような状況下において、本学園では、大学・短期大学の入学式の中止を決定し、5月31日までの入構制限を設けました。前期全ての授業は原則オンラインとし、5月4日を前期授業の開始、8月8日を前期授業の終了とする学事に組み替えました。6月1日より実験・実習の授業等一部対面授業を開始しましたが、後期からは、感染予防対策を徹底し、一部の授業の対面型の開始、担任教員による対面指導の充実を図るとともに、オンデマンド型の遠隔授業の充実を進めていきます。

中学高等学校・第二中学校高等学校・幼稚園については、入学式や入園を祝う会を6月に延期し、感染予防対策を徹底した上で実施しました。5月31日までの休校・休園を経て、6月より分散登校(園)や短縮授業、また、学年別の時間割スケジュールを編成して授業を実施しました。これらの対応によって前期の教育課程はほぼ予定通り実施できました。特に受験を控える高校3年生には、学習の遅れが無いように対応しています。

また、経済的な対応として、授業受講環境整備を目的とした全学生に対する5万円の支給(後期授業料での相殺)を決定し、奨学金の特別貸与制度(5万円)を新設しました。さらに、緊急支援奨学金(家計急変の学生に対して今年度の学費の半額を上限に給付し、後期学費に充当)についても実施することとしています。

中学高等学校はWi-fiルータの貸与を、第二中学校高等学校はスクールバスの発着地を変更したことにより定期代が増額した生徒に対して通学支援金を支給しました。さらに、家計急変の生徒を対象とした学費減免(入学金及び入学検定料を除く学費の全額)を行うこととしています。

これらの対策により、急を要する対応や連絡が続き、学生・生徒・園児の皆様、保護者の皆様にはご心配やご不便をおかけしましたが、「学生・生徒・園児・教職員の生命、安心・安全を最優先にする」ことを大方針に掲げて、「学びを止めない」「つながりを切らない」対策を実行してまいりました。

本号では、このようなコロナ禍における各校の取り組みを取り上げ、オンライン授業導入までのスピード感をもった対応の様子や学生・生徒・園児と真剣に向き合う姿勢・体制についてご紹介しています。

新型コロナウイルスの影響によるこの難局は残念ながら長期戦を予想せざるを得ません。その中で、学生・生徒・園児の成長と満足度の向上のために必要なことを教職員一丸となって進めてまいります。

「ウィズコロナ」、「アフターコロナ」時代にしっかりと対応した、柔軟に進化し続ける共立女子学園を学生・生徒・園児の皆様、保護者の皆様、卒業生の皆様とともに作り上げていきたいと思います。

学長メッセージ

コロナ禍の大学・短大の取組

共立女子大学・共立女子短期大学
学長　川久保 清

新型コロナウイルス感染症が終息しない状況で夏休みが終わります。後期の対策を考える上で前期の取組を総括したいと思います。

2月から国内感染者数が増加し、3月2日に全国小中学校に臨時休校の要請がなされ、3月11日にはWHOがパンデミックに相当すると宣言しました。本学においては、学位記授与式、入学式を中止し、オンラインでのオリエンテーションと履修登録を行うこととしました。4月7日の緊急事態宣言の発令を受け、4月10日からの学校閉鎖を決め、5月4日(月)を前期授業開始日とし、まず5月中の4回はkyonetを利用したオンライン授業(オンデマンド型)を実施することとしました。

しかし、感染症の広がり状況などから、前期中に通常の対面授業を再開するのは難しいと判断し、前期全ての授業をオンライン授業で実施する方針を4月30日に公表しました。授業実施の方針が朝令暮改とならずに、早い判断が良かったと思います。急にお願いしたオンライン授業でしたが、授業担当の先生方は良く準備しておこなって頂きました。オンデマンド型オンライン授業が学生のアンケートでも満足度が高く行う事ができたのは、本学のLMSであるkyonetが昨年より新しいversionで運用が始まっていたこと、教員のFD活動を支援する全学教育推進センターが昨年発足し、今年度湯浅先生が採用されていたことが理由としてあげられます。

オンライン授業では対応できない学内の施設・設備を使用した作業をすることが必須要件となる授業については、緊急事態宣言が解除された後、6月1日から開始しました。

前期授業は7月中旬以降の感染者数の増加の中、最終日8月8日まで行うことが出来ました。このような状況下に、8月19日には、「後期も引き続きオンライン授業を継続しつつ実験・実習・実技、語学・演習科目については、対面授業を実施する。一度も登校せずキャンパスライフを実感することない学生を極力なくす」とする後期の授業実施方針を公表しました。

今、課題としてあるのは、インターネット環境が十分でない一部の学生への支援、教員のオンライン授業の質の向上、中止している課外活動の再開などです。

今しばらくは感染が収束しない状況で学事をおこなっていく必要があります。感染症対策はおこないつつ、極端に恐れることなく、学生の事を第一に考え対応していきたいと思います。

【巻頭】コロナ禍における共立女子学園の取り組み

学園のコロナ禍における危機対策について

本学園では、新型コロナウイルス対策について学園全体としての取組みを推進するため、2020年4月1日、理事長を本部長とする「新型コロナウイルス対策本部」を設置しました。対策本部では、刻々と変わる内外の情勢を見据えながら、適時、各設置校の状況や感染防止対策等について情報共有を図り、対応を協議するとともに学園において感染や感染の疑いが発生した場合の危機管理体制について取りまとめを行うなどの取組みを進めてきました。

これまで学園関係者についても感染や感染が疑われる事例がいくつか発生しておりますが、その都度適切に対応してきており、現時点では、集団感染のような事態は生じておりません。しかしながら、新型コロナウイルスに関しては、今後も予断を許さない状況が当分続くものと考えられます。このため、対策本部としても引き続き感染拡大防止に万全を期して参ります。

新型コロナウイルス対策本部の様子

共立女子大学・共立女子短期大学の取り組み

コロナ禍におけるオンライン授業への対応について

全学教育推進センター（以下、センターという）は、本学の教育の質を保証するために授業方法の支援や教育方法の改善を目指し、2019年度に設置され、それに併せてkyonet※1をバージョンアップしました。また、2020年度4月からは、初めてのケースとして学部・科に属さないセンター所属の教員を新規採用しました。センターとして活動の準備が整ったところで、奇しくもコロナ禍に対応することになりました。

学生向け授業受講方法

感染症の拡大、緊急事態宣言の発令により5月4日から4回の授業は、オンライン※2で行う事が決定され、それを受けて急遽、「オンライン授業ガイド」を作成し、教員に配信しました。学生のインターネット環境を特に考慮し、オンデマンド型授業※3を原則とすることとし、5月初旬には新任の湯浅准教授を中心に「オンライン授業の作り方について」のオンラインFD研修会を開催しました。6月以降も一部実験・実習系の講義を除きオンライン授業を継続することになりましたが、この間にセンターには多数の質問・意見等が寄せられ、これらについてはオンライン授業ガイドのQ&Aにまとめて開示しています。

後期の授業は、一部講義科目、実験・実習を除いてオンライン授業で行う事が決定しています。後期もオンデマンド型授業を原則としますが、一部授業については同時双方向型授業※4も可としています。後期授業の開始に向けて、オンライン授業の質的向上を目指して教員個別相談の機会を設けるとともに、学生による「授業評価アンケート」、教員による「自身の授業のリフレクション」の結果を集約・検証し、後期授業のみならずコロナ禍以降の本学の教育のあり方についてセンターとしての対応を模索していく所存です。

（全学教育推進センター長　村上昌弘）

オンライン授業ガイド

※1　kyonet：本学の教育に関するネットワークシステムの名称。
※2　オンライン授業：ネットワークシステムを使用して授業内容を教授する授業形式。オンデマンド型授業と同時双方向型授業がある。
※3　オンデマンド型授業：教員が授業資料や動画等をインターネット上で配信し、学生は自宅等で好きな時間帯に学べる授業形態。
※4　Web会議システム等を用いて、映像や音声データを送受信し、教員と学生が同時にコミュニケーションを取りながら授業を行う授業形態。

学生支援課キャリア支援グループの取り組みについて

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、4月の緊急事態宣言以降、当課ではキャリアカウンセラーによるオンラインの個別相談、就活対策講座、情報提供など様々な支援に取り組んでいます。一部業界の採用中止により志望業界の見直しが必要になった学生に対しては、個別相談を通じて学生の気持ちに寄り添いながら支援を行い、大学に届く優良求人を紹介しています。就活対策講座では、自己PRの書き方やオンライン面接でのコツを解説し、選考を突破する力を身につけます。共立独自の就活サイト「kyoritsu就活」には企業等の求人情報やOGの活動報告書等様々なコンテンツが公開されており、就職活動に役立つ情報がいつでも閲覧できるように整備を進め、情報提供を行っています。今後も社会情勢や学生のニーズ等を踏まえ、オンラインと対面での支援を使い分け、学生一人ひとりが満足できる支援を目指します。

（学生支援課　キャリア支援グループ）

オンライン面談の様子

コロナ禍における入試やイベントについて（入試事務室）

昨年度は年間9日間のオープンキャンパスを実施し、高校生7,919人・保護者5,234人・合計13,153人もの来校がありました。また、教職員が学外の進学相談会、高校内進学相談会に参加することで、数多くの高校生・保護者・高校教員と面談し、本学の学びの優位性を伝えてきました。オープンキャンパスの来校者アンケート結果を見ると、学生や教職員と直接面談することで受験意欲が向上し、志願者数増加に繋がっていることを痛感します。しかし、今年度は新型コロナウイルス禍で、昨年度と同様のイベントを実施することができません。そこで、Webでの学生募集広報を展開しました。ホームページの内容を充実させ、高校生にダイレクトメールで告知することで、ホームページの閲覧数を増加させました。オープンキャンパス、高校教員説明会、そして日々の受験相談もWebに代替えしました。7月からはWebでの広報に加え、対面でのオープンキャンパスも再開しています。完全予約制で参加人数を限定し、三密を避けて感染予防を徹底しています。また、高校生の期待に応えるために、オープンキャンパス以外にも、9月までの土・日・祝日は、対面での学校見学会を実施しています。これまでのような大規模のイベントではなく、小規模のイベントを積み重ねることで、1人でも多くの高校生・保護者・高校教員に本学の学びの優位性を納得していただき、本学を志願してもらいたいと思います。（入試課）

コロナ禍における学生支援について

本学では、コロナの影響を受け、本学独自の緊急対応として、

・オンライン授業の受講環境のための支援奨学金5万円を全学生に給付

・5万円の無利子の特別貸与金

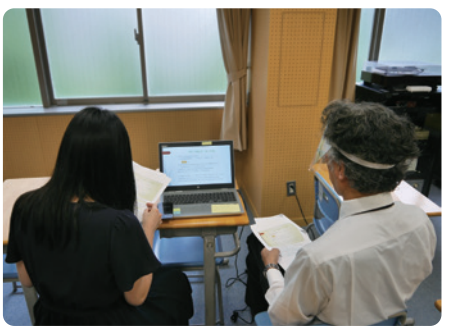
以上2つの制度を設け、「実務体験奨学金制度」（授業の空き時間に学内で様々な実務を体験することで奨学金を受給できる制度）では、定員を超えた数の奨学生を採用いたしました。更に、「コロナの影響による家計急変者への支援制度」についても、制定の準備を進めております。

5月には、全学生対象の緊急アンケートを実施し、電話相談を行いながら、個別に心身を含めた学生の問題・不安の解消に努めております。（学生支援課）

中学高等学校の取り組み

コロナ禍でのICTによる学習支援について

4月からオンライン授業の取り組みが始まりました。今年度から全生徒が一人一台タブレット端末を持つ予定でしたが、休校に入ってしまった関係で、持っている学年とそうでない学年（中1・中3・高1）が混在しました。そのため学校統一の方針が取りにくいことや、各家庭のICT環境の差も大きな壁となりました。そこでライブ型の授業ではなく、プリント課題や動画授業の配信をベースとしました。また中1については、特に精神面のフォローを優先し、校長や学年主任をはじめ動画メッセージの配信、保護者・生徒への電話連絡や教材の郵送、また通信環境の整備や学校用SNS（Google classroom）への登録等のお願いなどをし、2週間かけて他学年と同様に、動画授業の配信をすることができるようになりました。学園から通信端末を各家庭に貸し出す対応をしていただき、最終的にはライブ型の朝礼やロングホームルームができるようになるなど、生徒・教員ともに大幅なICTスキルの向上につながりました。夏季休業開けから、通常登校となりましたが、学校用SNSをはじめとしたICTツールは活用され、今までよりもデジタル教材の活用が活発になっています。

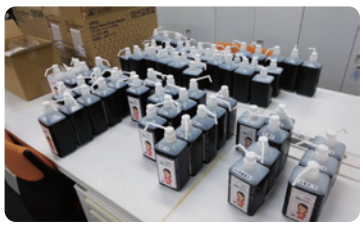


第二中学校高等学校の取り組み

コロナ禍での取り組みトピックス

感染のリスクを下げたうえでの、学校生活の維持を常に模索してきました。まずは緊急事態宣言下でも学びを止めないことを柱に対処を検討しました。その中でも大学受験を控えた高校3年生を最優先とし、スタディサプリの導入などを決め、受験対応の一助としました。

生徒の家庭での様子を把握し適切な対応をするために、Google ClassroomやMeetを利用して連絡をとり、ホームルームを行いました。同時にオンライン授業が開始できるように準備を進め、4月中は課題配信中心でしたが、ゴールデンウィーク明けには、全学年で授業の動画配信をスタートすることができました。



宣言解除後の6月からは登校を再開し、まずは1クラス2分割の半日分散登校から始め、感染防止対策を工夫しながら短縮一斉登校へ移行しました。その際に八王子バスルート、みなみ野七国循環ルートは乗車時間が長いこともあり、乗車時間10分の高尾バスルートのみに絞りバス運行をすることとしました。これにより通学経路の変更を余儀なくされる生徒のために通学支援金の支給もいたしました。

1学期は2回の定期試験を1回にまとめ、学期の終了を8月8日まで延長し、学力の充実を図りました。ほぼ予定の範囲を終了することができたことに安心をしています。

現在はいかなる状況変化にも対応できるように教員研修や校内ICT環境整備、ご家庭へのデバイス準備のお願いなど、よりよい学びの環境を整えるための工夫を進めています。

共立大日坂幼稚園の取り組み

コロナ禍での取り組みトピックス

コロナ禍の休園中に迎えた新年度、家庭の不安を少しでも軽減したいと考え、学園からの力を得てホームページ上で動画の定期配信を取り入れました。園長、新担任からのメッセージ、手洗い指導や体操、手遊びなどを自宅で過ごす園児達に向けて発信しました。

後日、感想として「教員の顔を見てほっとした」、「家庭での時間が充実した」との声が聞かれました。

また学年に合わせ、製作や色塗りの教材を送付したことも好評でした。

5月には「近況報告ライン」を実施し、電話で健康状態や家庭の生活環境、心配事などについて直接保護者や園児と話し、多くの家庭から様子を伺うことができました。状況を前向きに捉え、家族の時間を大切にしている報告も多く、園再開の励みにもなりました。（伊藤直子）

6月からの幼稚園再開に際し、全教員で各消毒液について情報共有し、作業を継続、確認する為に「消毒のチェック表」を作成しました。

園生活は、時差、分散登園で過ごし、登園時には、「健康チェックカード」を確認して、密集・密接を避ける為、登降園の仕方も見直しました。

また、身支度の方法、ロッカー、机や椅子の位置設定、遊具の置き場所、園児の集まり方、並び方など「ソーシャルディスタンス」を意識し、考え直しました。

園生活では、手洗いの徹底、マスクの扱い方、友達との距離の取り方、話し方など子ども達も意識して過ごすことができました。

今後も、「新しい生活様式」として状況に応じて柔軟に対応していきたいと考えています。（池田朋子）

家政学部

オリジナルデザインのマスク制作に取り組みました。

被服学科では、新型コロナウイルス感染症への対応として授業が開始できなかった4月中の学習意欲維持のためにマスク制作に取り組みました。対象は1～3年生の278名で、自宅にある材料を利用してオリジナルデザインのマスクを制作し、制作の過程をレポートにまとめるという課題を設定しました。制作されたマスクの中には、古着や不要になった生地を使用したサステナブルな作品や、キッチンペーパーや編み物などオリジナリティーのあふれる作品が多数ありました。オリジナルデザインのマスクが家族に好評で20枚も制作した学生もいました。被服学科では、このように社会課題に対応しつつクリエイティビティを養成する実践的な教育を進めています。

（学科主任　教授　村瀬浩貴）

食物栄養学科では2020年3月に行われた管理栄養士国家試験において、管理栄養士専攻の4年生48名が受験し46名が合格しました。合格率は95.8%で、例年通り全国平均を上回ることができました（全国平均（新卒）92.4%）。2019年12月に行われたフードスペシャリスト資格認定試験においては、41名が受験し、40名が合格しました。また、専門フードスペシャリスト試験においては、食品開発部門で9名受験中3名が合格（合格率33.3%）、食品流通部門で6名中4名が合格（合格率66.7%）しました。さらに、専門フードスペシャリストの食品流通部門で1名が全国第6位の優秀賞を受賞し、フードスペシャリスト協会より表彰されました。学生たちが大学入学時から地道に努力した結果であり、教員としても学生の成長を感じることができました。

（学科主任　教授　熊谷　仁）

前期作品講評会を行いました

建築・デザイン学科では、オンライン授業への短期間での対応は当然のことながら、新入生をどうサポートしていくか、走りながら考える毎日でした。オンラインでの建築設計教育やデザイン教育に試行錯誤しながらも、学生のフォローをしっかり行うことで教育の質は確保できたのではないかと考えております。そのような状況の中、前期課題の総決算でもある作品講評会をタブレットを用いて大型ディスプレイに作品を写したり、互いの距離を取りながら見せ方を工夫して行うなど、これまで経験したことのない環境の中で新しい教育の可能性を模索しつつも、この状況をポジティブに捉え、今だからこそ出来ることを学生たちと一緒に進めております。

（学科主任　教授　髙橋大輔）

新入生への支援や授業での取組の紹介

児童学科では、特に新入生への支援として、入学式、オリエンテーションが中止になり、学校にほとんど登校できなかったため、担任を中心としてオンラインでの個人面談やクラスミーティングなどを実施しました。このような社会状況だからこそ、声を聴き、顔を見て交流ができるように心がけました。今後も学生の立場にたったきめ細かい指導や支援を実践していきたいと思っています。

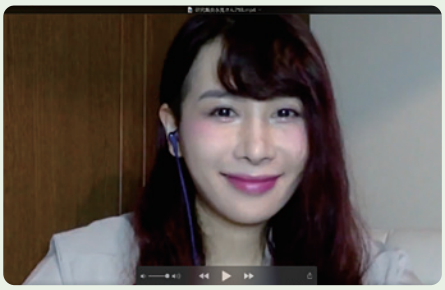
また、大学の学びは社会とつながっているため、学生自身が、いま、ここでできることを考えるきっかけとなるような教育実践にも取組みました。一例として「子育て支援論」という授業では、家庭できる手作りおもちゃや親子遊びを紹介するパンフレットを作成し、学園のHPで数点公開しました。

（学科主任　教授　小原敏郎）

文芸学部

オンライン配信による月例研究集会

今年度の文芸学部文芸メディアコース企画「月例研究集会」第1回は、7月18日(土)、オンライン配信で開催されました。視聴数に技術的な制限があったことから文芸学部の学生に対してのみの配信でした。ゲストスピーカーであり本学部卒業生でもある永見佳子氏からは、報道ベンチャー企業である株式会社JX通信社の広報担当というお立場で、困難な時期の就職活動の秘訣、小池百合子都知事選挙報道、コロナ禍におけるアプリ「NewsDigest」と感染マップアプリ開発、AIによるニュースソースの編集、そして、伝統的な新聞社からの取材などについて、刺激的でタイムリーなお話を次々と披露していただきました。(教授　藤田岳久)



オンライン公演中の永見佳子氏

コロナ禍における絵画ゼミの取り組み

絵画演習室はイーゼルやモティーフ、石膏像など多くの備品が置かれています。そのため学生や教員の居場所は見た目よりも狭く、どうしてもソーシャルディスタンスが崩れることがあります。対策としては空間を確保するため演習室を徹底的に整理し、換気効率を高めるため窓際には扇風機を配置するなどの工夫をしています。在り来たりのことしかできず、不安は残りますが、学生の意識が高いこともあって、無事に授業を進めることができています。緊急の取り組みとして、コロナ禍の下で困窮に陥った学生を支援するために桜会(絵画ゼミ卒業生の会)で寄付を募り、授業に必要な画材購入のための支援を行っています。充分な支援ではありませんが、コロナ禍がもたらした孤独・困窮・孤立を和らげ、共感・連帯・友愛の絆を深めることができたと思っています。　(教授　須田基揮)

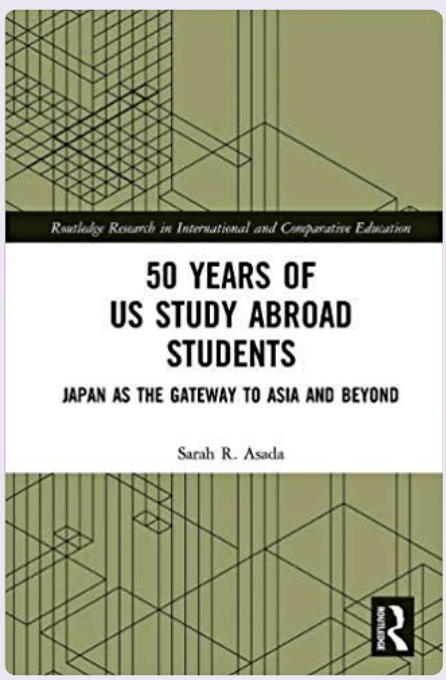
絵画ゼミ授業風景

国際学部

2020年度、国際学部は新任教員として岡部正義先生をお迎えしました。岡部先生は着任後、アジア諸国や開発途上国における「男子の教育不振」をテーマとする学位論文で「アジア太平洋研究賞(井植記念賞)」を受賞されました。また、GSEを担当するアサダ・サラ先生も、2020年3月にアメリカ人学生の日本留学を分析した単著(写真参照)によって、比較国際教育学協会(CIES)から表彰されています。

奇しくも、お二人とも教育をテーマとする研究によって表彰されたわけですが、人の流れ、とくに国境を越えた移動や交流に著しい制約を課す現在のコロナ禍の状況は、とくに豊かで柔軟な国際感覚や異文化理解を教育の柱とする国際学部にとって、大きな試練を突き付けています。実際、留学を予定していた学生たちは断念を余儀なくされ、またこれから考えようとしていた学生たちも、計画を変更せざるを得なくなっています。学部では、これに代わるものとして現在、たとえば「ヴァーチャル留学」や、TOEIC等の支援の強化などを検討しています。そしてコロナがもたらす、あるいは表面化させた「こころの分断」にどのように抗していくのか、ということについても、対面での授業が中心となるゼミなどで、各教員が学生に問いかけ、またともに考えていきたいと思います。

最後に、前期最終週の8月6日(木)に、大学院国際学研究科の研究構想発表会がオンラインで開催されたことを付記しておきたいと思います。修士論文執筆に本格的に取り組んでいる2年生1名、そして新たに進学した中国からの留学生を含む1年生2名が、発表を行いました。通常であればマンツーマンの対面指導が行われるところ、オンラインでの指導という不利な状況にもかかわらず、3名ともしっかりした報告をしていたのが印象的でした。後期は対面指導も可能となるので、さらなる研究の進展を期待しています。　(教授　西山暁義)



看護学部

コロナ禍における学び

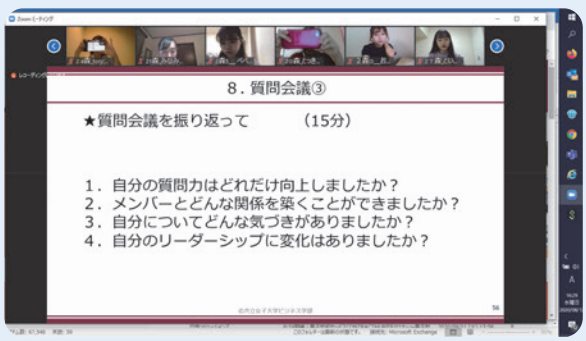
新型コロナウイルス感染拡大により、対面授業や実際の医療機関等で学ぶ臨地実習が休止となり、前期はオンラインでの授業を実施することになりました。教員は予め準備していた内容をオンライン授業へと設計し直し、オンデマンド型の講義や、同時双方向型の実習をスタートしました。履修生とはインターネットを介してつながり、大きなトラブルなく前期を終了することができました。これまでは、履修生の表情やリアクションを直接確認しながら授業を展開していましたので、心配な面もありました。しかし、一方でオンデマンド型の授業では、履修生が繰り返し、自分のタイミングで学びを深めることができるなどのメリットがあることも分かりました。これからは新型コロナウイルスとともに暮らす「新しい生活様式」の実践が求められています。コロナ禍の大変な時期だからこそ、看護を志す皆様と新たな学び方について共に考えていければと思います。（教授　山田　緑）

コロナ禍で看護学生として歩み始めた1年生

4月に入学した新入生100名は、クラスメイトや教員と直接顔を合わせることができない状況で大学生活をスタートしました。緊張と不安の毎日にあって、オンラインでのクラスアワーや同時双方向型授業は、数少ない交流の場となり、グループワークのある授業では、対面授業に劣らない活発なディスカッションが繰り広げられていました。8月上旬、前期終了の直前に初めて登校し、基礎ゼミナールの一貫として学内を探索し、健康診断を受け、そしてナースシューズのフィッティングを行いました。半日ほどの時間でしたが、学生は校舎で過ごせる時間を楽しんでいました。このシューズを履き、ユニフォームに着替えて授業が受けられる日が待ち遠しいです。（教授　西田志穂）

ビジネス学部

ビジネス学部は、2020年4月1日から、日本の女子大学初のビジネス学部、そして本学建学の精神を体現する学部として、AI社会を生き抜く力を身に付ける講義を始めることとしていました。しかし、コロナ禍で厳しい船出を余儀なくされました。



ビジネス学部は主に3つの取組を行いました。第1に、新入学生のケアです。当初、入学後すぐに全員面談を実施することとしておりました。これができなくなったのですが、専任教員全員で、担当学生に対し、一人一人に電話を掛けて、電話で面談を実施しました。

第2に、オンラインへの対応です。5月からオンライン授業が始まりました。ビジネス学部では新入生にノートPCを一人一台手元に用意することとしておりました。5月の中頃までには手元にPCが届き、スマートフォンの画面だけで授業を受けるよりも、より良い環境で授業を受けることができたと思われます。

第3に、リーダーシップ開発プログラムの着実な実施です。講師の運営の下、他学部の上級生のラーニング・アシスタントが授業を実践し、比較的少人数でWeb会議システムでの授業を行うことにより、一人一人のリーダーシップを育てることができたと考えています。

後期も引き続き難しい状況の中でのスタートとなります。特に新学部ということもあり学生間のつながりができていないことは大きな問題です。しかし、新しい生活様式の中でも、誠実・勤勉に自分を磨き、友愛を育てることができる環境を用意したいと考えております。

生活科学科

新型コロナ禍の対面授業

生活科学科は、実験や実習、演習科目が多く、実践的な教育を行うことに特徴があります。新型コロナ禍にあって大学の施設を使用することから休講を余儀なくされた実験や実習、演習科目は、遠方でオンライン授業を希望する学生への対応を諮り、6月に入り対面授業をスタートしました。はじめての登校に緊張した面持ちの新入生も、対面授業が進むにつれて打ち解けて自然と歓談する様子が見られ、良かったと思いながらも「密」にならないように注意を促しながらの授業となりました。

また、生活科学科では、キャリア支援教育プログラムを継続開催しています。昨年に続き卒業生を招いての「就活トークイベント（OG編）」は、8月8日（土）午後に、Meetを使用して同時双方向でWeb開催しました。就職活動や資格取得について具体的な体験が聞けるパネルディスカッションは、夏休みの過ごし方の良いヒントになったようです。

授業開始当初、手探りのkyonetやMeetも、今では多くの学生が自由自在に使いこなし、半期を通して大きく成長したことを実感しています。本来の大学生活を体験していただくには時間がかかりそうですが、生活科学科ではこの経験を活かしさらに充実した実践的なデジタル教育の提供を検討していきたいと思います。　（生活科学科長　教授　山口庸子）

CG演習A（イラストレーター）三井直樹教授

デッサン（実習）加賀裕子非常勤講師

文科

2020年の前期は新型コロナウィルスのために、予想もしていない事態に直面することになりました。入学式もなく、対面式のガイダンスもありませんでした。実験実習科目のない文科の新入生には、まったく登校する機会がなく、それではあまりにも心細く不安であろうということで、学校に早く慣れてもらうための授業「基礎ゼミナール」で、7月から8月にかけて対面式の授業を実施しました。

左の写真は、ソーシャルディスタンスを十分に取ったその時の授業風景です。クラスによっては、コースごとに座ってもらい、話しやすい雰囲気をつくりました。そこで実際にお友達になり、その後ラインで情報交換をしている人たちもいるようです。

右の写真は学内の見学かたがた散歩しているときの様子で、見入っているのは文科の読書室です。文科では読書教育にも力を入れており、読書室委員を募り、年に何回か委員会を開いて、文科の予算で購入する図書を選んだり、楽しい小説談義に花を咲かせたりしています。早くそうした光景が見られるようになることを願っています。　（文科長　教授　高橋　修）

大学院

コロナ禍における学園の取り組み

大学院修士課程の前期開講科目「被服意匠学演習」では、オンラインで授業を実施しました。シラバスで提示した目標を達成するための学びについて、授業目的、授業資料、授業達成点の項目を検討しました。毎回の授業目的を、明確に示すようにし、教科書、先行研究論文はもとより、関連する参考映像画像を複数提示して活用しました。そして、複数の授業資料の熟読と映像視聴を通して理解し、自らの考えを含めて記載するレポートで評価をしました。授業への取り組み意欲を継続的に保てるように、毎回欠かずにレポート評価のフィードバックをし、レポート提出の際に学生から記載されるコメントにも対応しました。

最終授業終了時の学生の授業評価アンケートでは、授業目的を明確化にしたこと、映像資料により深く理解できたことが高い評価となっています。

（教授　宮武恵子）

共立祭Web版について

今年度の共立祭はコロナウイルスの感染拡大を懸念して、例年と同じ形での開催を断念しWebでの開催を決定することといたしました。

名称を『おうちde共立祭！ 2020』と変更し、テーマを『花様年華』と設定しました。

この言葉は「人生の中で最も美しく輝く時」を意味し、参加者全員が1番輝ける場面を見つけ、今年が1番楽しいと思える学園祭であるようにと願いが込められています。

共立祭運営委員会は、活動に大きく制限をかけられた状況にありながら可能性を模索し、参加者が楽しめるイベントを企画していますので、ぜひご高覧いただけますと幸いです。

ホームページ公開は10月17日（土）を予定しています。

※写真は去年のものを使用しています。

（学生支援課）

サークル活動の新入生への呼びかけについて

新型コロナウイルス感染症の拡大防止に伴い、例年行われていた対面での新歓イベントが延期・中止となりました。それを受け、今年度は本学ホームページに公認学生団体の紹介を行う場所を提供しました。各団体は自ら、掲載する動画・スライド・ポスターを作成し、SNS等を使用して新入生への呼びかけを行いました。また、お昼休みのオンラインイベント内にGoogleMeetを使用した『オンラインサークル新歓』を設定しました。未だ、思うように活動できない日々が続きますが、各団体は今出来ることを考え、実践しています。

（学生支援課）

オンライン授業実施に向けたFD活動について

全学FD委員会では、教員が主体的に授業内容・方法を改善し教育活動を向上できるための諸活動を行っています。

今年度は5月初旬にオンライン授業をより円滑に行うことを目的として、「オンライン授業の作り方について」をテーマとした研修会をオンライン形式で開催しました。この研修会では、対面授業との違いや学修者のための授業設計のポイント、教材作成の際の留意点などを確認して、オンライン授業実施に向けた準備を行いました。

オンライン授業が浸透してきた7月中旬には、オンライン授業の具体的な実施例の共有や、オンライン試験における留意点を全教員に提示してさらなる充実を図りました。

前期終了後には、専任教員全員が自身の授業の振り返りを行うことにより、今後の授業改善や教育活動の向上にむけて全学的に取り組んでいく予定です。

（全学FD委員会）

共立女子大学は「朝日教育会議2020」に参画します！

日時　2020年11月23日（祝）
13：00～16：00（予定）

会場　共立女子大学
神田一ツ橋キャンパス　共立講堂

（インターネットライブ配信も行います。状況によってはインターネットライブ配信のみに変更になる可能性がございます。）

講演者　池上彰氏　ジャーナリスト

テーマ

これからの時代のリーダーシップとは

将来が見通せないVUCAの時代。同時に、コロナ禍で国際社会、日本も大きく変わりつつあります。これからの時代に、集団で共通の目標に向かう際に必要となるリーダーシップはどうあるべきでしょうか。

日本を代表するジャーナリスト、解説者である池上彰氏と共に考えていきます。

詳細は「朝日教育会議2020」公式ホームページをご確認下さい。

朝日教育会議2020	検索

（大学企画課）

社会連携センタートピックス

＜地域連携プロジェクト＞

共立女子大学・短期大学では、地域社会と連携して課題解決と地域振興、ならび学生の主体性が高まる社会連携活動の一層の推進と本学の教育の発展を目的として、2019年度より、「地域連携プロジェクト」を創設しました。2019年度採択5件の活動報告は、本学社会連携ホームページに掲載していますので、是非ご覧ください。

2020年度は6件の「地域連携プロジェクト」が採択されています。

◆2020年度　地域連携プロジェクト　採択課題　（プロジェクト代表者）

- 南三陸町と福井市における学校給食の献立考案について　（家政学部　教授　木下伊規子）
- 歌津中学校連携による地域食資源を活用した課題解決学習（PBL）　（家政学部　教授　近堂知子）
- 福井の食材を通して生活習慣病予防をめざした薬膳カレーの提案　（家政学部　教授　深津佳世子）
- ワークショップ型演習「建築＆デザイン総合演習」による神保町を舞台とした地域連携プロジェクト　（家政学部　教授　髙橋大輔）
- 「千代田区ふるさと検定」の活用による大学・地域間の交流推進　（家政学部　教授　本澤淳子）
- 福井と協働「mottainai」プロジェクト　（生活科学科　准教授　中西朋子）

＜企業・自治体との連携活動＞

共同開発お弁当　累計20万食達成

共立女子大学・短期大学と株式会社八社会は、商品開発、学術推進、人材交流及び育成等を目的に、連携協力協定（締結日：2019年5月1日）を締結しています。本協定に基づき家政学部　食物栄養学科の学生が、米飯弁当（もち麦弁当）を共同開発に取組み、2019年9月1日より首都圏私鉄系スーパーでの販売が開始しました。7月には販売累計20万食を達成し、10月には、共同開発新商品が展開します。

【販売概要】

◆販売期間：2020年10月1日（木）～10月31日（土）

◆販売商品・販売価格：秋薫る！20品目の彩り弁当　398円（税別）

◆販売店舗：（株）八社会に加盟 下記の首都圏私鉄系スーパー（約330店舗）

小田急商事、京王ストア、京成ストア、京急ストア、東急ストア、相鉄ローゼン、東武ストア

※一部取扱わない店舗あり

お野菜mottainaiオンラインイベント開催

本年度地域連携プロジェクトの一環で、生活科学科の学生らが福井の伝統野菜「河内赤蕪（かぶら）」の廃棄されがちな「葉」の活用法に取組み、8月28日にZoomでオンライン発表会を開催しました。当日は小～高校生、大学生や企業、地域の方など約80名に視聴参加いただき、蕪の葉を使用したアイデアレシピや食品ロス削減、食育を提案しました。

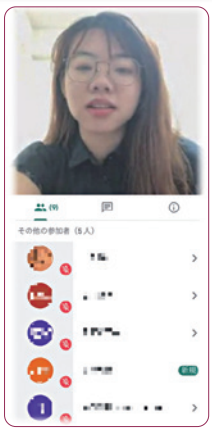
（社会連携センター長　教授　長崎 巌）

総合文化研究所トピックス

総合文化研究所は、本学の教育・研究との有機的な関連のもとに、学際的研究及び専門領域の研究を推進しています。2020年度の研究助成は、共同研究2件、個人研究4件の計6件で、出版助成は2件採択されています。コロナ禍において、本学における対面授業を制限する等対応が進められる中、総合文化研究所の助成研究においても、本学の教育活動を対象とした研究をはじめ、当初計画していた研究手法を変える等、所員の研究者が計画を見直しながら、研究を遂行できるよう進めています。今年2月には『総合文化研究所紀要』第26号も発行されました。これまでの研究活動の成果は、すべてKWU Repository（共立女子大学・短期大学リポジトリ）に登録されており、終了した各研究の詳細をご覧いただけます。　（総合文化研究所　所長　丸田直美）

国際交流トピックス

今年度は中国語・フランス語のトークルームをオンラインにより開催し、昨年度Stand Up!プロジェクトで大変好評だった韓国語トークルームは、新たに私費外国人留学生の運営で行われ、オンラインでお互いの文化やことばを紹介しながら交流を深めました。夏季海外研修は感染症の影響から残念ながら催行中止となりましたが、新たに夏季休業期間を利用した、本学提携校アメリカ・セントラルワシントン大学や、言語教育に定評のあるフランス・CAVILAMのフランス語コースの2つのオンラインプログラムを学生へ紹介しました。今後もオンラインを通して、この様な状況の中でもできる取り組みを行って参ります。



「Google meetで実施中の中国語トークルームの様子」

（学生支援課）

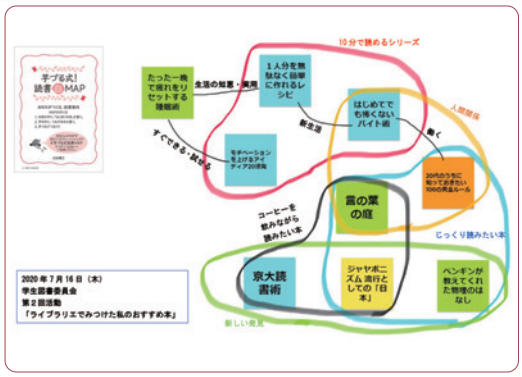
リブコモトピックス

2020年度前期はコロナ禍での入構制限の為、6月中旬までは休館を余儀なくされました。そのような状況において、図書館では新たな取り組みを行っています。

ひとつは、電子図書の充実です。今年度は先生方と協力し学修に役立つ資料の充実を図り、休館中でも自宅で閲覧できる資料を増やしました。また、卒業期生や大学院生を対象に図書館資料の郵送貸出や文献複写サービス、オンラインレファレンスも行いました。開館後は、安全面を配慮しながらの館内利用とともに図書館(リブコモ)の使い方や資料の検索方法、電子資料の利用方法をWebに公開し、オンライン授業や学修での活用など新たな方法での学修支援を行っています。

また、ランチセミナーや学生図書委員会の活動もオンラインで実施し、学生の自主的な活動を支援しています。

コロナ禍の中、図書館の役割やサービスの変化に図書館は対応していきます。



学生図書委員会活動より

博物館企画展示展覧会

大学が博物館を持つ意味は、もとより大学所属の学生の教育が第一ではありますが、公共機関として、また特に文化的機関としての社会的役割もまた非常に大きいと言えます。本学博物館も、こうした社会的責任を果たすべく、2016年の開館以来、所蔵品を用いて様々なテーマで展示を行ってきましたが、このたび、国際交流基金の海外における日本文化紹介の企画に、「学生が参画する社会連携事業」として協力することになりました。

具体的には、展覧会の海外での公開に先立ち本学博物館において先行公開し、展示具の使用方法や作品展示の具体的様子を画像に記録し、予定されている開催館(5か国、10会場以上)における展示の手本とします。博物館実習中の学生も本学博物館職員とともに、展示補助作業や記録作業を行い、社会連携事業にかかわります。

展覧会は、「日本の贈り物　心を形にして　－日本における贈答の美－」(主催：共立女子大学、独立行政法人国際交流基金　協賛：共立女子大学・共立女子短期大学社会連携センター)で、本学博物館において、2020年10月5日～2020年11月21日の会期で開催されます。この展覧会は、日本における贈答儀礼を広義に捉え、贈られるものに見られる特徴や美しさ、その多様性を、贈答儀礼の背景にある日本人の思想とともに紹介しようとするものです。

(展覧会の詳細は博物館のホームページ参照)

日本の贈り物
心を形にして
－日本における贈答の美－

お知らせ

「2019年度事業報告書」および「2020年度事業計画書」の公開について

本学では、教育研究機関としての諸活動について「2019年度事業報告書」および「2020年度事業計画書」にとりまとめ、学園ホームページ上で公開しております。
どうぞご高覧ください。

2020年9月1日より事務局が新しい組織体制になりました。

法人および教学マネジメント体制の強化を図ることを目的に、2020年9月1日より事務局が法人事務部と大学事務部の2部制の新組織体制となりました。

くわしくはこちら

中学高等学校　校長メッセージ

中学高等学校
校長　久永　靖史

「これからはウィズコロナで」

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、昨年度の3月始めから今年度の5月末まで休校としました。休校期間中はリモートによる学習指導を行いましたが、iPadをもっていない学年もあり、通信状況も様々で、さらに教育ソフトの不具合なども重なり、生徒・保護者の皆様には大変ご迷惑とご心配をおかけし申し訳ありませんでした。6月1日に中学入学式を共立講堂で実施し（高校入学式は中止）、その後は分散登校による学校活動を行い、8月初めの定期試験も分散で実施しました。夏休みは8月9日から8月23日までと大幅に短縮しました。8月24日からは一斉登校とし、ようやくクラス全員が顔を合わせることができました。45分の短縮授業にすることで、夕方の混雑前に帰宅できるようにしています。多くの行事を中止にせざるを得なくなり、生徒のみなさんには本当ににさびしい思いさせてしまい残念でなりません。現在も感染状況は予断を許しませんが、今後は感染防止対策をより徹底した上で、できる限りの学校活動を行っていきたいと考えています。なお、6月に実施予定であった中学3年の関西修学旅行と高校2年の九州修学旅行は12月に延期して実施する予定です。

第二中学校高等学校　校長メッセージ

第二中学校高等学校
校長　晴山　誠也

「新たなる生活様式への対応」

コロナ禍による長い休校期間、本校では4月中旬にオンライン学習をスタートさせました。先生方が互いに研修を重ね、6月初めの始業式までに各学年90時間以上の配信を実践しました。以来、段階的に学校を再開してきましたが、終業式を迎えるころには、もう立秋を過ぎていました。生徒たちにとっては長くもあり短くもある1学期だったと思います。

1学期の始業式において私は、一人ひとりの「行動変容」と「強い行動自粛」を心掛けてくださいと話しました。それに対し、生徒たちは認識を新たに、一人ひとりがしっかり自覚をもって行動をしてきたと思います。昼食時に各教室を巡回しましたが、皆前を向いて黙々と食事をとっている様子には心打たれるものがありました。大変立派だったと思います。

学校は生き物だと改めて強く感じます。生徒不在の校舎はまるで抜け殻のようです。まだ通常の状態に戻るまでは時間を要しますが、生徒の声が響くいつもの学校を取り戻すまで、慎重さを失わず、国難を乗り越えていきたいと思います。

第二高校創立50周年を迎えたこの年、色々な意味で記憶に残る形のスタートとなりましたが、生徒たちの咲き誇る未来をしっかり見据えつつ、導いていきたいと考えています。

幼稚園　園長メッセージ

共立大日坂幼稚園
園長　上野　純子

「幼稚園の現在、そしてこれから」

令和2年度の園生活はコロナ感染症対策という新たな課題を抱えながら、6月に開始致しました。その後も慎重に分散登園や時差登園を繰り返しながら、これまでとは異なった「新しい生活様式」を意識し、教育活動を進めて参りました。

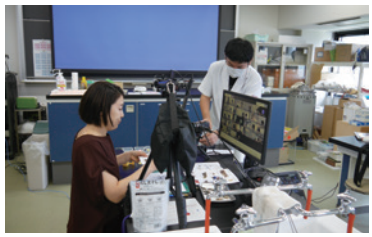
幼稚園の果たすべき役割は、一人ひとりの「生きる力の基礎を培うこと」でありますが、幼児期の学びの特性から、知識や教えられる事の習得よりも遊びを通して教育実践していくことで多様な力を育むべきであると考える本園にとっては、「新しい生活様式」と向き合っていくことは難題となり立ちはだかっておりました。

しかし、再開から夏休みまでの1か月半の子ども達の姿はウィズコロナに柔軟に適応しており、その健気な姿から教えられることが多々ありました。丁寧な手洗い、待つ時のソーシャルディスタンス、時に応じたマスクの扱い、そして食事時に大きな声を発することが無い静かな食事風景。それでも遊ぶ姿の逞しいこと。園庭で鬼ごっこや虫探しなど元気に繰り広げている姿があちらこちらで見られ、子ども達が持つ力強さを感じ、新鮮な感動を覚えました。

今後も保護者の方々のご協力を頂戴しながら、園児の生きる力の基礎を育てる教育に力を注いで参りたいと思います。

中学高等学校

初のWebオープンキャンパス開催



8月9日(日)、Webによるオープンキャンパスが開催され、教科や部活動からライブ型の授業12講座・学校説明会、動画配信等、工夫を凝らした盛り沢山の内容となりました。例えば『「パプリカ」に合わせてカップミュージック!』という講座では、児童に紙コップ1個を机上に用意してもらい、教員からの指示に従い、手でふちを打ったり、机をカップでタップしたり、ひっくり返したり、手拍子を入れたりして、リズムを刻んでいきます。後半では、子供達に大人気の「パプリカ」の吹奏楽演奏に合わせて、一緒にリズム演奏でコラボするという内容でした。楽しそうに演奏する児童の姿がPCの画面を通して垣間見え、その一生懸命さがとてもかわいらしいと感じました。「初めは緊張したけれど、吹奏楽部のお姉さん達と一緒に演奏できてとても楽しかった」との感想を多数お寄せ頂き、手伝ってくれた部員もとても嬉しそうでした。

今回は初のWebオープンキャンパスということもあり、通信状況など教員側も試行錯誤の部分がありましたが、今後も共立の様子を知っていただけるよう、工夫をした外部発信をより充実させていきたいと思います。

第二中学校高等学校

今年も野菜は豊作(中1)

分散登校が行われた6月、中学1年生が理科の時間にファームで夏野菜を収穫しました。例年は入学してすぐに植え付けを体験するのですが、今年はそれが叶わず、授業が始まっていきなり収穫という形になりました。生徒たちは戸惑いながらも初めての畑仕事を頑張っていました。

生徒会、配信がんばってます!

生徒の諸活動には思うように時間がとれない状況下、生徒会は自ら動画を作成し、生徒に向けて熱心に語りかけています。活動内容、特にボランティア活動についての説明動画や学校再開に向けてのお願いなど次々と配信を行ってきました。

初めてのリアル&ウェブ保護者会を実施

各学年とも7月中に2ヶ月遅れの保護者会を行うことができました。都内の感染者数が増加していることもあり、今回は広い会場で対面形式の会(希望制)を開催し、ウェブを利用してライブ中継も同時に行いました。初めての方法でしたが、混乱なく終了することができました。

共立大日坂幼稚園

誕生会

毎月行っている誕生会は、昨年度までは誕生月のお子さんの保護者の方を招待し、全員で広い部屋に集まり、3学年合同でしていましたが、今年度は各学年ごとに保育室で行っています。もり組では担任が紙芝居等を読み、おひさま組では担任がお楽しみを考え、こばと組では保護者の方が作ってくださったものを元に、担任が誕生月のお子さんが生まれた時のお話をします。全学年で集まらなくても、年齢に応じて楽しむことが出来る誕生会の方法を毎月模索し、気持ちを込めてお祝いをしています。

（間宮紗矢香）

遊びの様子

分散登園や時差登園を行っていたので、仲良しのお友達と会えない日や、遊ぶ時間が短い日もありました。しかし、充実した遊びが展開できるように工夫すると、間もなく園庭全体を使って鬼ごっこやかけっこなどを楽しむようになり、子ども達の笑顔もたくさん見られました。室内では隣の席のお友達との距離を空けてお絵描きや粘土遊びをしたり、遊戯室ではままごとや積木などそれぞれのコーナーを設けたりするなどの配慮をしています。今後も密にならないように工夫しながら、子ども達が存分に遊べる楽しい環境作りを続けていきたいと思います。

（砂塚直子）

サポーターズ募金のお礼

2015年9月1日より5年間に渡り、「共立女子学園サポーターズ募金」活動を行ってまいりました。8月31日をもって、当募金活動が完了致しましたことをご報告申し上げます。多くの皆様のご協力により、ご寄付の累計は664件、256,675,109円となり、全体の目標額1.5億円を達成いたしました。ご支援頂きました皆様に改めて篤く御礼申し上げます。

ご寄付は、学園内の教育支援のためのネットワークシステム（kyonet）やICT環境の整備等、学生のための教育活動支援資金として活用させて頂きました。また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、家計急変による経済的な支援を行い、学生が修学を継続できることを目的とする緊急支援奨学金としても活用する予定です。今後も引き続き皆様からのご支援を賜りたく、ご理解とご協力をお願い致します。

『サポーターズ募金』から『フューチャーズ募金』へ

～伝統を受け継ぎ、未来を切り開く～

共立女子学園は、明治19(1886)年に「女性の自立と自活」という建学の精神のもとに設立され、2020年には大学にビジネス学部を新設し、2026年には創立140周年を迎えます。引き続き本学園の教育研究の一層の振興を図るとともに、とりわけ意欲ある学生に幅広い学びの門戸を開放するための奨学制度をより充実させ、社会に幅広く貢献できる自立した人材を育成するため、新たに「共立女子学園フューチャーズ募金」を設立しました。つきましては、共立女子学園の教育の更なる充実と発展のために、多くの皆様からのご支援、ご協力をお願い申し上げます。

募金の種類

この寄付は一般の方々に幅広くお願いする任意のものです。寄付の使途は次の2つです。

奨　学　資　金
- ▶人物・学業成績とも優秀な在学生への支援
- ▶スポーツ・芸術等の分野において成果をあげた在学生への支援
- ▶経済的な理由のため学業の継続が困難となった在学生への支援
- ▶本学を第一志望としながら、経済的な理由のため入学が困難な受験生への支援、本学留学生への支援

教育研究振興資金
- ▶教育・研究環境の整備と充実、教育・研究活動の支援

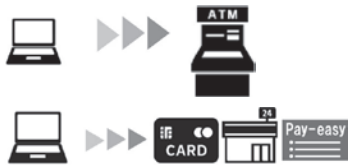
- ●寄付金額：1口1万円(金額にかかわらずお受けいたします。)
- ●募集期間：2020年9月1日～2025年8月31日(5年間)
- ●顕彰制度：学園報でのご芳名・ご寄付額の発表、サポーター証の贈呈等をご用意しております。

お申込み・払込方法のご案内

① **振込用紙でのお振込み**
専用の振込取扱票に必要事項をご記入の上、郵便局または銀行窓口でお振込み。

② **ATM及びネットバンキングによるお振込み**
学園ホームページより、「ATM・ネットバンキングからのお振込み」画面を選び、入力フォームに必要事項を入力し送信、その後ATMやネットバンキングによりお振込み。

③ **クレジットカード・コンビニ・Pay-easyを利用するお申込み**
学園ホームページより、「インターネットからのお申込」画面を選び、入力フォームに必要事項を入力し送信。



学校法人に寄付をした場合の税制優遇について

個人が学校法人に対して寄付をした場合には、確定申告を行うことによって、一定額の控除を受けることができます。

所得控除について

所得控除
個人の所得税額の計算において、年間の所得金額から
寄付金額 － 2千円 を控除。

※税額控除について、現在文部科学省に申請中です。
詳細については、事前にお問合せいただくか、ホームページにてご確認ください。

- ●所得税額の計算式
（年間の所得金額－各種控除額(寄付金控除含む))×所得税率＝所得税額

「サポーター証」キーホルダーを寄付者の方全員へ贈呈いたします。

個人で10万円以上の寄付者の方へは
「プレミアムサポーター証」キーホルダー、
学園ラベル特製高級ボトリングティを贈呈いたします。

ここに、2020年3月1日から2020年8月31日までの寄付の応募状況及び、寄付者ご芳名を掲載させて頂きます。
たくさんの方々からご寄付頂きましたことを、心よりお礼申し上げます。

募金応募状況
(2020年3月1日～2020年8月31日受付分及び累計)

	2020年3月1日～2020年8月31日受付分		累計 2015年9月1日～2020年8月31日受付分	
教育研究振興資金（目標額1億円）	16件	2,020,000円	489件	228,345,110円
奨学資金（目標額5千万円）	15件	620,000円	175件	28,329,999円
合計（目標額1.5億円）	31件	2,640,000円	664件	256,675,109円

寄付者ご芳名
（敬称略・50音順）

九十万円
鹿島建設株式会社

三十万円
一般社団法人
地域社会活性化支援機構

十五万円
レクトラ・ジャパン株式会社

十万円
池田壽々子　奥山章雄
川久保清

六万円
小國美由紀

五万円
篠田朋子　寺山実

二万円
加藤充彦　小室洋子

一万円
河野さつき　栗山郁代
小林順子　田中敦子
飛田若晴　前田和子

匿名十四件　七十三万円

「共立女子学園報」は64号(2021年10月発行予定)より秋号がデジタル版になります

本学園ご関係者の皆様にご愛読いただいております「共立女子学園報」はデジタル版に移行致します。
ペーパーレス化による環境への配慮、電子化による利便性向上、といった時代に対応した形にする目的となります。
詳細は本号同封の別紙をご確認ください。

発行　学校法人　共立女子学園　東京都千代田区一ツ橋2-2-1　TEL 03(3237)2838　E-mail：kohop@kyoritsu-wu.ac.jp
ご意見・ご感想および住所変更は、E-mailでも受け付けます。